



会員寄稿

「人とのつながり」

教頭 井上 富夫

現在、新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大しています。愛媛県でも新規感染者数の高止まり状況が続くとともに、感染力の強い変異株が主流となり、県内はかつてなく感染リスクが高まっています。今後も、新型コロナウイルス感染症から生徒たちを守り、安全・安心な学校生活を送ることができるよう努めてまいりますので、御協力をお願いいたします。

さて、人は一人では生きていけません。様々な人との協力や助け合いといったつながりがあって、私たちは生活できるのだと思います。私は、今までの教員生活や部活動指導を通して人とのつながりを築く上で大切な、「感謝」や「謙虚さ」といったものを学ぶことができました。私の高校時代は、日々部活動に熱中し、根拠のない自信やプライドだけで生活していました。自分の置かれた環境や指導者への感謝の気持ちが不十分で、今考えると恥ずかしい限りです。

私は、中学校からバスケットボールを始めました。選手として、指導者として長くバスケットボールに携わっています。こうして続けてこられたのも応援してくれる家族や友人、熱心な指導者や悩みを聞いてくれた仲間、対戦相手や審判の方々など様々な人とのつながりや助けがあったからだ、やっと思えるようになりました。私たちは環境に慣れると不平不満を言い、周囲への「感謝」や「謙虚さ」というものを忘れてしまいがちです。高校時代の私を反面教師として、生徒の皆さんには、初心を忘れず今置かれているそれぞれの立場に感謝し、人とのつながりによって今の自分があるのだという謙虚さを持ってほしいと思うのです。「感謝」と「謙虚さ」を持つ人間には、いつか必ず誰かが手を差し伸べてくれます。また、「感謝」と「謙虚さ」を持った人間は困った人に優しく手を差し伸べることもできるようになるのも事実です。

昨年度、本校で開催された体育祭や文化祭などの学校行事を見ても、地域の方や保護者の皆さまとしっかりつながっていると感じました。また、今の大洲高校は地域や保護者の皆さまとの関係が良好で学校を全力で応援してもらい、守ってもらう環境が整っています。こういった環境だからこそ、今できる様々な活動を精一杯取り組み実践してもらいたいですし、人とのつながりに喜びや生きがいを感じ取ってもらいたいと思います。そういう体験や経験が生徒の成長に結びつくと確信しています。卒業後は、厳しい社会の中で生きていかなければなりません。「感謝」と「謙虚さ」を忘れず、そして人とのつながりを大切に、人生を歩んでほしいと思います。

最後になりますが、生徒一人一人の成長を見守り、社会に役立ち貢献できる人材を育て指導してまいりますので、今後とも大洲高校を温かく見守っていただきますようお願いいたします。

